

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語、数学、理科、生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	150	人
② 数学	150	人
③ 理科	150	人

5 留意事項

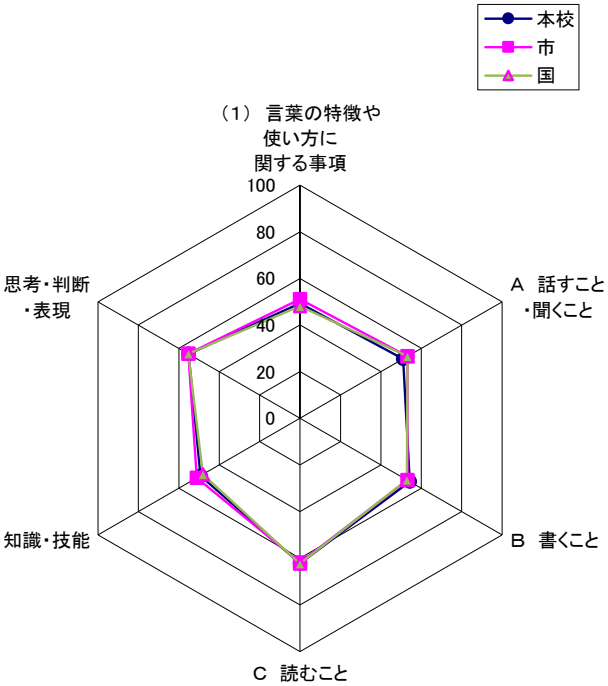
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	49.3	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	51.0	53.2	53.2
	B 書くこと	54.3	53.1	52.8
	C 読むこと	62.2	61.8	62.3
観点	知識・技能	49.3	51.1	48.1
	思考・判断・表現	55.2	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

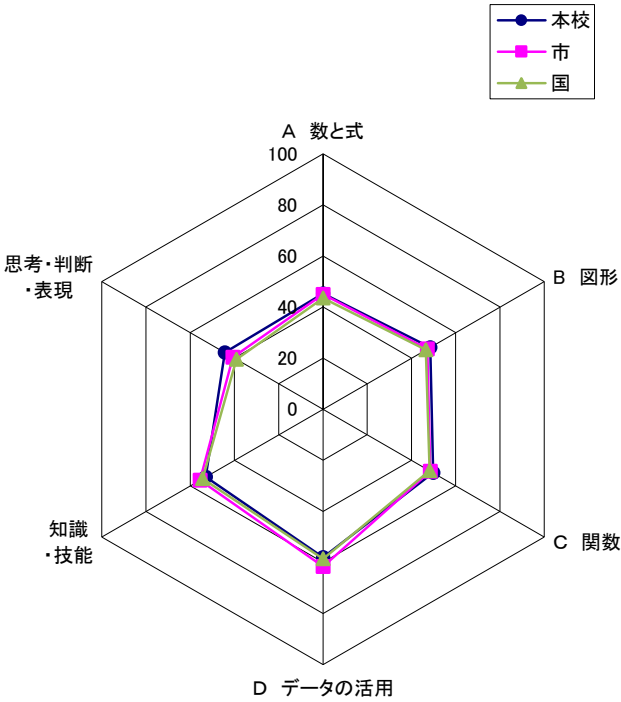
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	正答率は、市を1.8ポイント下回った。国は、1.2ポイント上回った。 ○事象や行為を表す語彙について理解しているかを問う問題では、市を1.5ポイント上回った。 ●文脈に即して漢字を正しく使うことができるかを問う問題では、市を5ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・意味を理解させ、文脈に沿って使い分けができるように、意味調べや例文づくりなどの活動を取り入れる。 ・読書活動の推進を図る。また、類義語や対義語を調べる活動等を通して、語彙力を鍛えるようにする。 ・漢字テストを定期的に行い、既習漢字の復習をする。
(2) 情報の扱い方にに関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	正答率は、国と市を2.2ポイント下回った。 ○自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫できるかを問う問題では市を1.5ポイント上回った。 ●資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫できるかを問う問題では、市を6.2ポイント下回った。	・自分の考えをスライドに分かりやすくまとめたり、図や表で情報を整理したりする活動を、授業で取り入れる。また、資料や機器を用いてまとめたものを、生徒同士で読み合い、助言し合うことで、考えを広げられるように指導する。
B 書くこと	正答率は、市を1.2ポイント、国を1.5ポイント上回った。 ○目的に応じたことを伝えたいことを明確にする問題4.8ポイント上回った。 ●読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える問題では1.3ポイント下回った。	・話し言葉やねじれ文の間違いは作文の授業でも見られるので、文章の構成に必要な知識の定着を図る。また、相手の立場に立って考えられるよう物語の授業を用いて、生徒同士で対話的な授業を行い様々な考えを取り入れられるよう指導する。
C 読むこと	正答率は、市を0.4ポイント上回り、国を0.1ポイント下回った。 ○表現の効果について根拠を明確にして答える問題では1.0ポイント上回った。 ●文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える問題では0.9ポイント下回った。	・物語の人物を理解するために、人物の相関図を作るなどの工夫を行う。また、場面転換についても主体的に見つけられるよう指導する。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	45.3	45.0	43.5
	B 図形	48.5	47.2	46.5
	C 関数	49.8	48.5	48.2
	D データの活用	58.0	61.6	58.6
観点	知識・技能	53.0	55.6	54.4
	思考・判断・表現	44.4	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

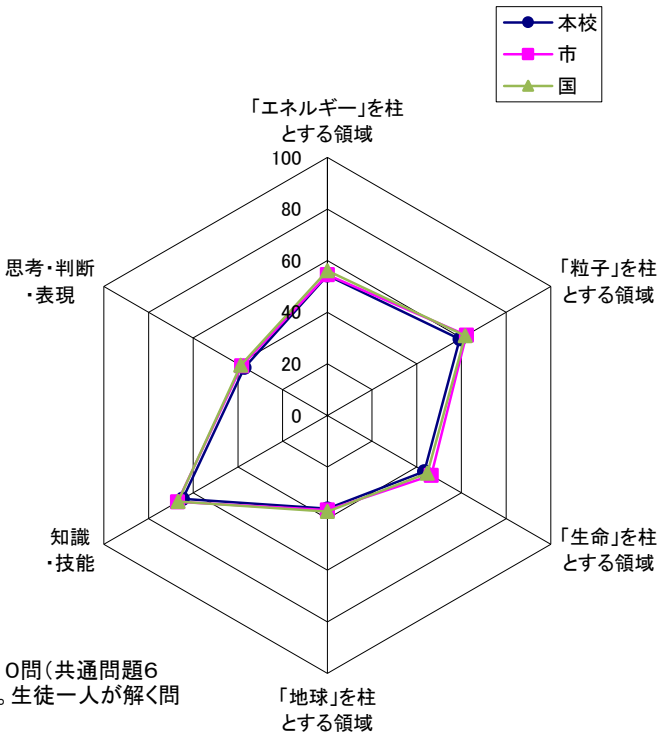
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は、国を1.8ポイント、市を0.3ポイント上回っている。 ○連続する3の倍数の和の性質を説明する問題で、正答率が県や国を8ポイント程度上回っている。整数の性質を用いて説明する力が身に付いている。 ●1から9までの整数から素数を選ぶ問題では、正答率が国や県を4ポイントほど下回っている。	・基本的な用語の意味が理解できるよう、定期的に復習の時間を設定したり、数学的な用語を用いて説明する活動を取り入れたりする。 ・基本的な計算力を高めるために、授業の最初などに復習する時間を設定する。 ・定期的に小テスト等を行い、用語の意味や計算力の定着を図る。
B 図形	正答率は、国を2.0ポイント、市を1.3ポイント上回っている。 ○合同を証明をする問題の正答率で、正答率が県や国を6ポイント程度上回っている。証明をする力が身に付いている。 ●多角形の外角を求める問題で、正答率が国や市を8ポイント程度下回っている。	・基本的な図形の性質や、角度や面積等の計算問題について、授業の最初などに復習する時間を設定する。 ・定期的に小テスト等を行い、用語の意味の理解を図る。
C 関数	正答率は、国を1.6ポイント、市を1.3ポイント上回っている。 ○問題解決の方法を数学的に説明する問題で、正答率が国や県を8ポイント程度上回っている。数学的に説明する力が身に付いている。 ●変化の割合をもとにxの増加量に対するyの増加量を求める問題で、正答率が4ポイント程度下回っている。	・表、式、グラフの相互の関係を確実にとらえられるよう、板書等を工夫して指導に当たる。 ・比例、反比例、一次関数、2乗に比例する関数のそれぞれの特徴をとらえられるように、適宜復習の時間を設定する。
D データの活用	正答率は、国を0.6ポイント、市を3.6ポイント下回っている。 ○必ず起こる確率についての問題で、正答率が国や県を5ポイント程度上回っている。 ●度数分布表をもとに相対度数を求める問題で、正答率が国や県を9ポイント程度下回っている。	・基本的な用語や計算問題について、授業の最初などに復習する時間を設定する。 ・日常生活や社会生活における不確定な事象の起こりやすさについて、確率を用いて思考することを促していく。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	54.3	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	59.2	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	43.4	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	36.2	36.7	37.3
観点	知識・技能	64.7	67.0	66.8
	思考・判断・表現	37.1	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日により指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日により異なる問題16問)の調査結果を集計した値である。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	正答率は市を0.2ポイント、国を1.8ポイント下回った。 ○電流・電圧と抵抗や熱量についての知識及び技能に関する問題では、市を1.6ポイント上回った。 ●抵抗に関する知識が概念として身に付いており、身近な事象に应用できるかの問題については、市を3.1ポイント、県を2.1ポイント下回った。	・エネルギー分野において、抵抗など目に見えないものを理解することやその意味について考察することを苦手としている生徒が多い。電圧や電流の大きさを求めるといったドリル学習や抵抗が身の回りどのように使われているのかを考える問題を多く取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	正答率は市を3.0ポイント、国を2.5ポイント下回った。 ○化学変化を原子や分子のモデルで表す問題では、市を2.1ポイント上回った。 ●身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定する問題では県から11.4ポイント、国を15ポイント下回った。	・実験の基本的な知識が不足している生徒が多い。事象についての課題設定や実験計画、考察を自分たちで進め、課題意識をもって取り組めるよう指導する。
「生命」を柱とする領域	正答率は市を3.1ポイント、国を1.4ポイント下回った。 ○小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈する問題では、国の平均とほぼ変わらなかった。 ●水中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかを見る問題では国を3.1ポイント下回った。	・器官のつくりと表面積など、基本的な知識については説明ができるようになっている。細胞呼吸は基本的なものはたつきであるが、有機物と酸素からエネルギーを取り出すなど、イメージしにくいところでもあるので、基本的な知識を深めるよう指導する。
「地球」を柱とする領域	正答率は市を0.5ポイント、国を1.1ポイント下回った。 ○気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想は寧ろされた振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかを見る問題では、国を2ポイント上回った。 ●気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いたかを見る問題では国を6.8ポイント下回った。	・気圧という同じ現象においても聞き方によって、差が見られた。基本的な知識は身に付いてきているので、事象を説明するアウトプット型の授業を増やしていきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

-
- ・(5)「自分には、よいところがあると思いますか」肯定回答が、全国より14.1ポイント、県より12.4ポイント高い。(6)「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」肯定回答が県より7.8ポイント全国より15.3ポイント高い。
 - ・教員との関係が良好なことが伺える。また、話し合い活動なども安心した雰囲気の中で行われることで、互いの意見を尊重し合う場面が多いことにつながっていると考えられる。同様の活動を今後も取り入れていく。
 - ・(29)「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で～できると思いますか」の4つの項目、1「文章を作成する(文字、コメントを書くなど)こと」、2「インターネットを使って情報を収集する(検索する・調べるなど)こと」、3「情報を整理する(図・表・グラフなどを使ってまとめる)こと」、4「学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成すること」肯定回答が、全国より16.1ポイント～23ポイント、県より7ポイント～16.3ポイント高い。
 - ・各教科や生徒会活動など学校生活の様々な場面で、1人1台端末を積極的に活用し活動に取り組んできたことが関係していると考えられる。効果的であった使い方や場面などについて、教員相互でも情報交換して今後の活動に活かしていく。
 - ・(45)国語、(53)数学、(61)理科の「教科は好きですか」肯定的回答が全国・県より4ポイント以上高い。
 - ・各教科学習への興味関心や参加意欲が高いことが伺える。
 - ・(39)「授業や学校生活では周りの意見を大切に、お互い課題解決に取り組んでいますか」肯定回答が、全国より11.9ポイント、県より3.3ポイント高い。(43)道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」肯定回答が、全国より11.3ポイント、県より3.5ポイント高い。話し合い活動ができていて、周囲の意見を聞いたり、自分の意見をもつことができていたりしている。
-
- ・(21)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」肯定回答が、全国より2.3ポイント、県より1.6ポイント低い。
 - ・学校以外で読書の機会が多くはないので、HPや図書便り等を通して学校外での読書の啓発に取り組んでいく。
 - ・(36)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」肯定回答が、全国より高いが県より1ポイント低い。(38)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」肯定回答が、全国より高いが県より4ポイント低い。
 - ・授業やテスト等で間違えた問題について、分かるまで突き詰める粘り強さを育成したい。問題の説き方の解説を増やす、既習内容との関わりや教科横断的なつながりを授業で取り上げるなど、教員側の指導の工夫もしていく。
 - ・(48)(49)肯定回答が、全国より2.3ポイント、県より4ポイント低い。国語科の先生からのフィードバックを求められている。
 - ・(53)「数学は好きか」好きという肯定回答が高いが、一方で嫌いという回答も高く、二極化していることが分かる。
 - ・授業展開を工夫し、生徒の「分かる・できる」を高めていきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
1人1台端末の効果的な活用	課題解決する力を高めるられるように、意見交換をし、学び合いながら考えたことを表現させる学びを深めるための支援の充実。	(29-4)「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表スライド)を作成することができると思いますか」肯定回答が54.8ポイントで、全国より24ポイント高く、大きく上回った。
学び合いの充実	意見交流により、考えを表現させ学びを深める。	(35)「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」肯定回答が44.5ポイントで、全国より9.4ポイント高く、県より4ポイント
学習の基盤となる資質・能力の育成	毎時間の国語の授業において、スタンダードテスト(漢字テスト)の実施	国語「書くこと」市を1.2ポイント、国を1.5ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
(38)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」肯定回答が県より4ポイント低い。	「分かる・できる」授業展開の工夫。	・教師が課題解決方法の順序や選択肢を示したり、生徒同士の学び合いの充実を図る。 ・学習内容や思考過程を振り返る活動の設定や、教師が生徒の言葉を引き出しながら、学習課題に呼応するまとめを分かりやすく言語化する。